

## 1 FD委員会15年

### 甲南大学FD委員会委員長 佐藤泰弘

今年度、本学は大学コンソーシアムひょうご神戸のFD・SD委員会の委員長校を務めている。他校と協議しながらFD・SD研修会の企画を考え、実施する。委員長校としての仕事を果たすうえで、教育学習支援センターのスタッフには大活躍してもらっている。委員長校になると研修会のため施設を提供することもあり、本学の教職員が参加しやすくなることはメリットだと思う。

さて、本学でFDが本格的に実施されるようになったのは、FD委員会規程の制定が2008年(平成20年)2月であるから、その歴史は20年に満たない。私が本学に着任した20世紀末には、多分、FDは話題にもなっていなかったように思う。2005年(平成17年)の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において、「高等教育の質の保証が重要な課題」であることを指摘し、FDとは「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」と説明している。

この答申のポイントは「高等教育計画の策定と各種規制」の時代から「将来像の提示と政策誘導」の時代への移行」であり、「国による質の保証の仕組みと各機関の自主的努力が相まって信頼確保」ともされている。この時が、日本の大学がFDに取り組み始める起点であったのかもしれない。この答申では、研究拠点大学、職業人養成大学、教養教育大学などに大学が機能分化して特色を明確にすべきことも書き込まれており、この話題は覚えていたのであるが、それが教育の質保証と結びついていたことを改めて確認した。

とはいえ、文科省・中教審の方針によってFDをやっているというのは、ちょっと違うような気がする。多くの大学教員は研究方法を体系的に学び身につけているが、教育方法を体系的に学んでいる教員は稀であろう。教えられたように教えるということが通用していたのは、高学歴社会を迎える前であったからだと思う。教えられる側が多様化し、教える教

員の経歴も多彩である。一定の研究能力があれば教えることができると思うのは、楽観的すぎるのかもしれない。

そのような文脈においてFDは重要である。とくにF=facultyという限りは、教員の集まりを想定している。このFは教授会や教員会議のような制度化された教員集団を意味するだけではなく、色々な教員の集まりであってよい。私の身近なところでは、ピアラーニングとして折々のテーマを立てた研究会を開催している先生がいるし、高校の学習指導要領の改訂に対応した研究会を高校の教諭を招いて開催している先生もいる。このような地道な活動から、個々の学部、大学、そして大学コンソまで、色々なレベルでの活動がある。

日々、忙しくしていると研修に参加する時間を捻出できないという事情も分かるけれど、参加してみると、色々な先生の話の聞いたり、話し合ったりするのは楽しい。

そんなこんなで、来年度は本学のFD委員会が発足して15年目になることに気付いた。

#### 【参考文献】

- 我が国の高等教育の将来像(答申)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm)
- 我が国の高等教育の将来像<中央教育審議会 答申 ポイント>  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335602.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335602.htm)
- 中央教育審議会 大学分科会 制度部会(第21回)議事録・配付資料  
「大学教員及びファカルティ・ディベロップメント等に関する参考資料」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415.htm)

## 2 「導入共通科目“AI・データサイエンス入門”に関するFD・SDセミナー」報告

### 報告者：フロンティアサイエンス学部 中野修一、全学共通教育センター 谷守正寛、宮川聡

2023年9月12日(火)に、「導入共通科目“AI・データサイエンス入門”に関するFD・SDセミナー」と題した甲南大学FD研修会がZoomによるオンラインで開催された。

最初に、教育学習支援センター所長の関和広先生からセミナーの趣旨説明があり、2022年度にオンデマンド授業として開講された「AI・データサイエンス入門」の履修者数は440

名(全1年生の20%弱)であり、そのうち約半数が文系学生であったことが紹介された。引き続き、講義を担当している関先生(知能情報学部)、篠田先生(全学共通教育センター)、吉川先生(全学共通教育センター)から各セクションの取り組み内容が報告された。

AI・データサイエンスセクション担当の関先生の報告で

## 2022年度AI・データサイエンス セクションの取り組み内容の紹介

知能情報学部  
関和広

は、第1～3回の導入部分と第12～15回のねらいについて説明があった。第1回「社会で起きている変化と活用されているデータ」にはじまり、第2回「データ・AIの活用領域とそのため技術」、第3回「データ・AI利活用の現場と最新動向」という内容で導入し、そこではテキストに沿って、ウェブデータ、SNS、ログデータ、観測データといった様々なデータとその活用のための技術(回帰・分類、クラスタリング、自然言語処理、画像処理、圧縮等)を説明する。応用例としては推薦、チャットボット、ABテスト、タンパク質の立体構造予測等がある。また、動画(音声入りのプレゼン)は分割してMicrosoft Streamにアップロードし、My KONANのテスト機能で毎回のまとめテストを作成する。多肢選択式の自動採点方式を採用し、問題のプールからランダムに選択した問題をランダムな順番で出題し、毎回Microsoft Formsで授業の理解度(感想・コメントを含めて)を確認している。実践面では、第12・13回「Pythonによるプログラミング1・2」、第14・15回「データ活用実践1・2」として指導する。ねらいとしては、プログラミングの最初の一步を踏み出すこと、Pythonの基本的な書き方やAI/DS関連ライブラリの基本的な使い方を知り自ら学ぶことができる最低限の知識を身につけることが挙げられる。アンケートでは、「ほとんど理解できた」「ある程度理解できた」とする者が大半で、「初めは、難しい内容であると感じながら行っていたが、やっていくうちに思っていたよりも慣れ、非常に理解しやすかった。(文)」、「プログラミングに興味があったので、楽しかったです。(経営)」といったコメントがみられた。本科目の履修者が行える(と期待される)ことは、Pythonを(Google Colabで)実行できること、条件分岐と繰り返しを含む簡単なプログラムが書けること、欠損値などが無いきれいなCSVデータがあれば回帰分類モデルの学習、それをを用いた予測・評価ができることである。

### データサイエンス入門 【基礎】データリテラシー セクションについて

甲南大学 全学共通教育センター  
篠田 有史

エクセル実習セクション担当の篠田先生の授業は「データリテラシー」を対象にしている。履修者は、それまでの授業で学んだ知識を、エクセルを使って試してみることになる(「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法を学ぶ)。モデルカリキュラムの学習目標として挙げられているものの中には、最終的には研究室あるいは高学年のゼミの少人数の教育でしか達成できないと考えられるものがあり、それについては、簡略化する

形で試してみるという形になっている。最初の3回の授業で統計処理の方法を学び、表計算の課題やインターネットで得られたデータを使って履修者が処理できるようにすること、残りの2回の授業では、データ分析を履修者に体験させること(①公開されているデータを使用して、説明的なデータ分析を行う。②オリジナルのデータを使用して、予測的データ分析を行う。)が内容になっている。授業を実施するうえで、いくつかの問題が生じた。BYODを前提にして授業を行ったが、履修者全員がMicrosoft OfficeをインストールしたPCを所有しているわけではないこと、そういう学生はPC教室を利用するのが最も適切な解決になるが、コロナ対策のために登校不能になるとPC教室を利用できなくなり、指定した期限内に課題を提出できず、そうした学生には個別に救済する必要が生じるが、個別対応は難しいため、Microsoft 365を使用しオンラインベースで実習を行う方法を採用した。ところが、今度はオンライン版ではエクセルの分析ツールが動作しないという問題に直面した。2023年度に向けての改善点としては、内容をブラッシュアップすること(関数の説明を改善)、外部機関から指摘された「統計的仮説検定の部分の強化」についても、説明のための文書を配布することで対処することを考えている。

導入共通科目AI・データサイエンス入門に関する  
FD・SDセミナー

### 2022年度における情報倫理 セキュリティセクションの 取り組み内容の紹介

吉川 歩

情報倫理セクション担当の吉川先生からは、教科書と授業内容の詳しい説明があった。数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(M-DASH)に対応した教科書に沿って、データ・AI利活用における留意事項を3回の講義に分けて説明し、第9回はELSI・GDPR・AI倫理・AI脅威論、第10回はデータ倫理・公平性・悪用例、第11回は情報セキュリティ・プライバシーなどを取り扱っている。履修者はPCやスマホのブラウザで学習し、教科書と補足資料を用いながら理解を深める。履修者の理解度はMy KONANのテスト機能によって確認が行われた。各学生にランダムに出題される正誤問題(テスト課題)の採点結果の分析によると、テスト課題の提出率は高く、得点の中央値は80点を超えていた。この分析結果に基づいて、2022年度の講義の方法と内容について特段の問題はないことが報告された。

3件の事例報告に引き続いて、吉川先生から2022年度の成績と出席率についての説明が行われた。毎回の講義でテスト課題があり、講義回ごとにばらつきがあるものの、課題の提出率は高く、単位取得学生の提出回数は平均14.6回であった。My KONANはテスト課題以外にも、課題の正答の公開や、Q&A機能による学生とのやり取りにも活用されている。最後に、篠田先生から授業改善アンケートの結果に関して、講義に意欲的に取り組んだ学生が多く、満足度も高いという評価が紹介された。今回のセミナーでは、文系・理系に関わらず学生のAI・データサイエンスに対する関心が高いことが伺えた。現在の2年生の学年からはAIとデータサイエンスに関する基本知識を身につけた学生が増えることになり、このことを各学部の専門教育につなげていくことが大切だと感じた。

### 3 「甲南教育学習DXプロジェクトに関するFD・SDセミナー ～2023年度VRを用いた英語学習アクティビティの開発～」報告

報告者：文学部 廣川晶輝、理工学部 田中孝明



2023年11月29日に「甲南教育学習DXプロジェクトに関するFD・SDセミナー～2023年度VRを用いた英語学習アクティビティの開発～」が2号館3階のGlobal Connecting Passageにて開催された。冒頭に甲南大学FD委員会委員長の佐藤泰弘先生より開会の挨拶があった後に、全学教育推進機構事務室の溝端祐介氏より甲南教育学習DXプロジェクトの概要について説明があった。このプロジェクトはニューノーマルにおける遠隔・オンライン授業などのデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組みや、先進的・効果的な授業方法や取組みを募集、支援を行うものである。2022年度以降、3件の取組みを支援している。

甲南教育学習DXプロジェクトで支援を受けている取組みの一つが、本セミナーで紹介された「LOFTでのVRを用いた体験型アクティビティの開発」である。その内容を、全学共通教育センターの山本シャリー先生が、途中、参加者にも実際にVRの体験も交えつつ、非常にわかりやすく説明して下さった。KONAN Language LOFTは、学生の自主的な語学学習支援のためのスペースであり、2015年に開設された。LOFTでは様々な活動が行われているが、本年度より新たに始まったのがVRを用いた活動である。

セミナーでは、この活動で実際に用いられているアプリケーションが動画とともに紹介された。バーチャル海外体験アプリBRINK TravelerやNational Geographic Exploreを用いることで海外の様々な場所に仮想的に行くことができる。英語でのインストラクションや参加者同士のコミュニケーションを通じて、楽しみながら英語を身に付けられる。単に英語を学ぶだけではなく、自然と「海外」に興味を持つことができることも魅力的だ。そうした興味も、更に英語を学ぼうというモチベーションにつながるだろう。BRINK Travelerでは最大5人の参加者が世界各国のBRINK(絶壁や崖などの端)から眺める絶景を仮想的に目の当たりにできる。絶景を前にしたその感動をどのような言葉でお互いに伝え合

うのか。この表出の行為の術を「現場」で模索できることの意義は大きい。仮想的ではあるが「生きた体験」となるのだ。また、CompassやField Notebookというツールを駆使しての資料収集の中で参加者間のコミュニケーション能力が養成され、学生の資質向上に大変有意義である。

MultiBrushというアプリケーションでは、3Dペイントができる。学生がグループで参加することで、VR内でコミュニケーションを取りながら共同で作品を完成させたりすることができる。

最後に紹介されたVirtualSpeechというアプリケーションも大変興味深い。このアプリケーションは、プレゼンテーションや面接などの練習を行うことができる。会場の場所や聴衆の人数、講演中に質問が来るかどうか、邪魔になるようなノイズ(携帯が鳴るなど)を発生させるかなど、事細かな設定が可能である。質問もAIによって講演内容に即したものが飛んでくる。練習後には、発音、スピード、ボディランゲージの度合い、アイコンタクトの度合いなど、項目ごとにスコアが提示されてフィードバックを行うこともできる。これは自分のために使いたいぐらいだ。

閉会挨拶をされた全学共通教育センター所長の関和広先生も仰っておられたが、技術の進歩によって、我々が英語を学んでいた頃と比較して、様々な方法で英語を実践的に学ぶことができる時代になっているのだと実感できた。報告者は外国語教育の専門家では全くないが、米国で暮らしていた際に感じたのは、単語や文法が頭に入っているだけでは英語を使いこなせないということだ。生活の中で遭遇する場面々々で、どのような言い回しが使われるのか、「生きた英語」の知識・経験が必須であると思っている。VRを用いた英語教育によって、日本にしながら「生きた英語」を身につけることが可能になっていると感じた。また、英語を含む外国語教育だけでなく、他の分野の教育でもVRが有効ではないかと考えさせられた。



# 4 2023年度甲南大学FD委員会活動報告(2023年4月~2023年12月)

○4/3	新任教職員ガイダンス	○10/20~11/2	授業参観
○5/8	第1回FD委員会	○11/29	FD・SDセミナー（甲南教育学習DXプロジェクトについて）
○7/10~7/24	前期授業改善アンケート実施	○12/8	第3回FD委員会開催
○7/31	第2回FD委員会	○12/18~1/15	後期授業改善アンケート実施
○9/12	FD・SDセミナー（導入共通科目AI・データサイエンス入門について）		

## 《学部・センター・研究科の主なFD活動報告(2023年4月~2023年12月)》

### 〈文学部〉

- 6/2 他 計7回 文学部教育検討委員会
- 7/26 文学部「横断演習Ⅰ」「横断演習Ⅱ」をめぐる協議会
- 12/20 2023年度文学部FDプログラム

### 〈理工学部〉

- 4/11~5/10 教員相互の授業参観
- 4/13 高圧ガス安全講習会
- 6/27 教員相互の授業参観
- 7/5 教員相互の授業参観実施後の検討会
- 8/30 機能分子化学科FD懇談会
- 9/6 学生を交えた意見交換会、全教員対象FD活動
- 10/25,11/8 授業参観と意見交換会
- 9/28,11/24 教員相互の授業参観

### 〈自然科学研究科〉

- 4/13 高圧ガス安全講習会
- 6/6 複数指導教員体制について

### 〈経済学部〉

- 12/13 経済学部ベストレクチャー事例発表

### 〈法学部〉

- 5~6月 2023年度前期中間授業アンケート
- 7/5 授業参観
- 7/11 FD懇談会
- 11/13~26 中間授業アンケート
- 12/13 授業参観
- 12/18~1/15 学期末授業アンケート
- 12/19 法学部FD懇談会

### 〈経営学部〉

- 9/5 2022年度後期授業改善アンケート結果の検討

### 〈知能情報学部〉

- 5/16 成績不振者に対する特別指導の報告
- 9/26 授業改善アンケート結果の活用
- 10/24 「知能情報学概論及び基礎演習」の振り返り

### 〈マネジメント創造学部〉

- 7/25 Chat GPT/AI
- 9/6 生成AI(chat GPT)について
- 9/27 ジェネリックスキル測定結果集計分析について

### 〈フロンティアサイエンス学部〉

- 5/11 安全講習会（高圧ガス安全講習、試薬安全講習、研究倫理安全講習）
- 5/16 2022年度ベストレクチャーの授業参観
- 5/29 授業参観に基づくFD研修会

### 〈フロンティアサイエンス研究科〉

- 5/11 安全講習会（高圧ガス安全講習、試薬安全講習、研究倫理安全講習）

### 〈全学共通教育センター〉

- 4/11 他 計5回 共通基礎演習について
- 4/11 他 計16回 スポーツ・健康カリキュラム
- 6/6 他 計2回 第二外国語分科会
- 6/20 英語カリキュラム分科会
- 7/18 他 計7回 基礎共通カリキュラム
- 7/25 国際言語カリキュラム委員会
- 9/19 授業改善アンケート結果に基づいた授業事例紹介

### 〈教職教育センター〉

- 5/15 授業改善を図るための検討会
- 10/23 授業改善を図るための検討会

### 〈公認心理師養成センター〉

- 6/20 演習実習教員対象研修の動向の共有

### 〈法科大学院〉

- 5/29 第1回拡大FD委員会
- 8/9 第2回拡大FD委員会

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

甲南大学トップ ▶ 甲南大学について ▶ 甲南大学のFDへの取り組み

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。  
 全学教育推進機構 教育学習支援センター TEL078-435-2592(内線2812) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp